

2024年度

2024/09/01 ~ 2025/08/31

年間報告書

ANNUAL REPORT

一人一人の「やりたい」を
「できた」に変え

日本の未来に「Good」な
「Change」が
起こっている社会を創る



N P O 法人 S E T

Message

未来への 種を育てた一年

三井 俊介

特定非営利活動法人 SET 理事長
特定非営利活動法人 高田暮舎 理事
特定非営利活動法人 新公益連盟 北海道・東北ブロック代表
宮城大学 非常勤講師
一般社団法人 幸せなコミュニティとつながり実践研究所 理事
特定非営利活動法人 miraito 理事
岩手県総合計画審議委員
元陸前高田市議会議員（2015年9月～2019年9月）
「政策起業家が社会を変える」出版

2011年4月6日、陸前高田市への初めての現地入りの時、広田町と出会う。



2024年度は、コロナ禍を経て交流事業が本来の姿へと戻っていった一年でした。地域を訪れる中高生や大学生、そしてそれを受け止める住民の皆さんとの対話が再び豊かにめぐり、私たちが大切にしてきた「やりたいをできたに変える場」が現実の中で息づいていることを改めて実感しました。

一方で、私たちはこの環境が生み出す価値を、どのように言葉として整理し、未来で更に形作っていくのかを深く議論した一年でもありました。「SETの本質的な価値をどう形作っていくか？」という問いを起点に、多くのメンバーと対話を重ね、未来に向けた構想やプロジェクトの種を丁寧に仕込んできました。

その中でも大きかったのは、SETが描く未来のシナリオをみんなでブラッシュアップし、共に目指す方向を明確にしたことです。SETが行なっている「まちづくり」はこれまでのまちづくりの限界を打破するものなのか？何が違い、どう広がる可能性があるのか？そしてそれは日本の地域を照らす本当の希望になるのか？そんなことを深めた1年でした。

来年度は、このシナリオを社会に届けるための新しい取り組みが次々と芽吹いていきます。ぜひ皆さまと共に、その芽を育て、より豊かな未来へとつなげていけたら嬉しいです。

事業説明／組織図



交流部

震災後SET独自の自主事業に取り組み、岩手県内の自治体と連携して地域社会の変化を目指しています。県内・県外の大学生を中心に地域の魅力を引き出し、修学旅行受け入れでは約15,000人の交流人口を創出。自治体職員や企業向け研修も実施し、地域づくりに貢献しています。地域との対話を通じ、ここで活動した若者が仲間として日本の未来を共に築いています。



暮らし部

持続可能なライフスタイルづくりをテーマに、生き方やキャリアを学ぶ場を提供しています。森林再生やパーマカルチャー、地産地消の食づくりなどを通じて多様な体験を創出。10年以上の交流を通じたまちづくりの経験から、移住や地域コミュニティの再生を促し、自然環境の共同管理や青少年の成長機会を生み出しています。



研究部

SETで生まれる変化を可視化し、社会に新たな視点を提案しています。若者や地域住民の意識変化を調査し、書籍や論文を通じて成果を発信。アカデミックボードを設立し、専門家と連携して実践知を理論化し、未来の社会に必要な新しいアプローチを提示しています。これまで10冊以上の書籍に掲載され、その成果が広く認められています。





2024年度 財務報告



2024年度は、「タネをまく1年」でした。昨年度、交流が完全に戻り、事業規模が大きく伸びた反動から、今年度は「成長のための整理と投資」を行った年でした。規模の維持よりも、次の10年に向けて本質的な価値を磨くことを優先し、挑戦的な事業の仕込みを複数進めました。その結果、経常収益は7,261万円となり、昨年度より縮小しましたが、助成金の獲得や関係人口事業の拡大、企画段階のプロジェクトが複数生まれ、未来に向けた確かな種まきが進んだ年だったと言えます。

この一年も、全国から寄せられたご支援や応援のおかげで歩んできたことができました。心より感謝申し上げます。

収益について.....

2024年度の経常収益は7,264万円でした。

昨年度と比べて事業収益は減少しましたが（前年比約63%）、これは来年度以降の仕込みのために、短期的な売上よりも中長期的な価値を優先したためです。また、寄付については、金額が減少する一方で、応援して下さる個人・企業の数が増えました。SETの理念に共感し、「一緒につくる仲間」が確実に増えていることを強く感じています。

費用について.....

2024年度の経常費用は9,421万円でした。

特に、外注費・旅費交通費・車両費など、現場を支える移動・連携コストが多くを占めています。

今年度は、地域を越えた共同プロジェクトや新規拠点の構想が動き始め、未来への社会的投資が増えました。

その結果、当期の正味財産は▲21,730,816円となりましたが、これは、昨年度積み上げた黒字を活用しながら実験・投資を行った結果だと受け止めています。

さいごに

SETは、目の前の事業を回すためだけに活動していません。

「若者が挑戦し、地域が希望を取り戻していく未来を形にするために、必要な投資は恐れずに行う。」その覚悟を持って進んだ一年でした。とはいえ経営的にはまだまだとても大変なのでヒリヒリしながら頑張った1年だったといえます。来年度は、今年まいた種が芽吹き始めるフェーズです。芽吹かせなければなりません。

引き続き、一緒に未来をつくっていただけると幸いです。

どうぞ、これからも応援をよろしくお願いいたします。

2024年度 財務報告

2024年9月1日から2025年8月31日まで（単位：円）

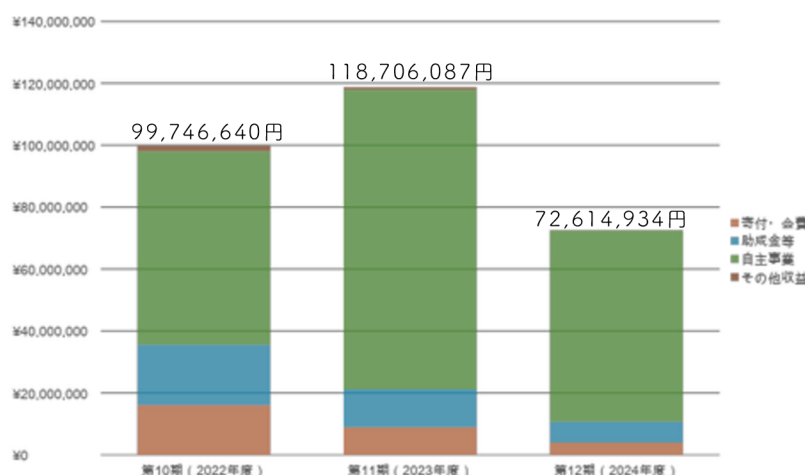
科目	金額
I 経常収益	
1.受取会費	1,288,641
2.受取寄附金	2,751,925
3.受取助成金等	6,704,370
4.事業収益	61,772,991
5.その他収益	97,007
経常収益計	72,614,934
II 経常費用	
1.事業費	
人件費	35,819,749
その他経費	46,984,665
事業費合計	82,804,414
2.管理費	
人件費	2,053,331
その他経費	9,361,309
管理費合計	11,414,640
経常費用計	94,219,054
当期経常増減額	-21,604,120
税引前当期正味財産増減額	-21,594,842
法人税、住民税及び事業税	135,974
当期正味財産増減額	-21,730,816
前期繰越正味財産額	13,788,652
次期繰越正味財産額	-7,942,164

2024年度 貸借対照表

2024年9月1日から2025年8月31日まで（単位：円）

科目	金額
I 資産の部	
1.流動資産	35,302,388
2.固定資産	3,228,457
資産合計	38,530,845
II 負債の部	
1.流動負債	15,069,009
2.固定負債	31,404,000
負債合計	46,473,009
III 正味財産の部	
正味財産合計	-7,942,164
負債及び正味財産合計	38,530,845

経常収入内訳 3期比較



民泊チーム 交流部

陸前高田ならではの「心の交流」が 全国から高く評価されました！

「修学旅行民泊」で11校1,935名（延べ3,195名）、「個人・グループ民泊」で21団体284名（延べ365名）を受け入れました。約100軒の家庭が協力し、体験指導料として20,065,600円を地域に還元。市内23事業者も民泊クーポンに参加し、受け入れ体制が強化されました。これらの取組が評価され「フェニックスアワード2024」を受賞。大型宿泊施設の少ない中で修学旅行誘致を実現し、「心の交流」と「防災学習」を生んだ一年となりました。



大学生ユニット 交流部

CMSPは気仙町へ進出 交流は市外・県外にも拡大！

2013年から続くCMSPは陸前高田市内で5町目となる気仙町・今泉地区に進出しました。昨年度も春夏合わせて52人の大学生スタッフ、54人の参加大学生が関わりました！

また、陸前高田市外に飛び出して行う関係人口プログラムが多様化しており、岩手県野田村、三重県南伊勢町、静岡県小山町にも、大学生が進出し始めています。地域住民と交流し陸前高田で起こしてきたgoodなchangeを起こしていきます！



社会人ユニット 交流部

高田やSETと出会い、 学ぶ社会人増えてます！

岩手県岩手町、山形県長井市、株式会社ジェイフィール、junior株式会社、立教大学、JR東日本、株式会社LIFULL、GCストーリー株式会社（敬称略）の、2自治体6社と研修を行いました。また、山形県置賜地域の教育委員会主催の研修会にもお呼びいただきまちづくりについてお話しする機会をいただきました。研修で来ていただいた方と次の研修やつながりを作る動きも生まれており、大学生だけでなく社会人にも仲間が増え始めています！



研究チーム 研究部

今年もNPO学会で元気に報告 してきました！

2025年6月に関西学院大学で開催された日本NPO学会第27回研究大会にて実践報告を行いました。報告では、一戸町と岩手町で実施されたマイプロジェクトの伴走支援事業に参加する中高生のシビックプライドを高めていることを示しました。



一戸町

岩手町

全体

関係人口数

事業に参加した住民数

活動する地域数

プログラム参加者数

連携団体数

※関係人口数
非居住であり半年以上定期的に通い
活動するスタッフ

2年目に向けて！ 「やりたい」を「できたに」、その先へ！

北欧を中心に発展している“学校でも家庭でもない第3の居場所”としての「ユースセンター」。ミライトは2022年にプレオープンし、地域の皆さまとともに準備を進めながら、2023年3月にグランドオープンしました。そして2025年4月には、「中高生が地元だからこそ、夢を実現できると思える町にしたい」という想いのもと、地域に根づき、より多くの人と未来をつくっていくために、「特定非営利活動法人miraito」を設立しました。これまでのミライトの想いを受け継ぎながら、「やりたいをできたに」のその先を見据えて、今後はNPO法人miraitoが運営を担っていきます。若者の「やってみたい」が広がり、地域とともに育っていく。そんな新しいステージが、いよいよ始まります。



県北まちづくりチーム 交流部

県北エリア3市町村で中高大学生が「やりたい」に挑戦しました！

県北エリアの3市町村で、中高大学生153人が、自分の興味や関心、そして町の人々の想いをもとにプロジェクトを実施しました。「地元の特産品・りんごを使って商品を開発したい」「麻雀という遊びを通して多世代が交流できる場をつくりたい」「町の魅力をもっと多くの人に伝える文化祭を開きたい」など、それぞれの“やりたい”を形にしました。地域の多くの方々の協力を得ながら、若者たちは数々のプロジェクトを実現。その一步一步が町の風景に新しい彩りを加え、地域の未来に希望の灯をともした一年となりました。



数 値

：およそ128人
：およそ3001人
：8
：およそ2385人
：およそ141団体

陸前高田市

コミュニティビジネスチーム 暮らし部

地域のつながりがめぐる、彩葉の一年

今年のカフェ彩葉は、地域の人々が自然と集い、支え合う関係を育む小さなコミュニティとして一層歩みを進めました。地域住民や遠方からの来訪者など延べ844名が来店し、カフェ営業やイベントを通じて、多世代が交わる時間が生まれました。

さらに、ボランティアチームを結成しオンライン会議を重ねて、理想とする彩葉のビジョンマップを作成しました。彩葉の未来像や大切にしたい価値観を言葉と絵で表現し、活動の方向性を共有することができました。地域内外の応援者とのつながりがより豊かになっています。

他店さんの出店や講師を呼んでのワークショップの開催なども行い、「人と人が出会い、思いを交わし、暮らしの中に小さな希望がめぐる場所」として、地域に彩りを届けています。





Change Maker Study Program (CMSP)とは

大学生と地域住民の交流・地域活性化プログラム。大学生が半年の間で何度も陸前高田の同じ地域を訪れ、さまざまな活動を繰り広げています。

主なイベント(上半期の例)

①仲間集め

時期 5月下旬～6月

内容 大学生が夏休みに陸前高田で実施する1週間のプログラムに参加する大学生を自ら募集する期間です。説明会をオンライン・オフラインを併用して複数回実施します。プログラムが始まってから最初に直面する難関として知られています。

②現地入り

時期 5月～8月(合計12日間程度)

内容 チームごとに陸前高田の同じ町を何度も訪れ、フィールドワークをします。地域の方々と定期的に会い、活動を共にすることで信頼関係を築きます。都会との違いに最初は戸惑う大学生が多いです。

③本番の1週間

時期 8月～9月(1週間)

内容 「仲間集め」で集った大学生と町で1週間の「本番プログラム」を実施します。半年かけて用意してきたプログラムを大人数の大学生と地域の方々と実施する光景はまさに集大成といえます。日本で一番アツい夏を自負しています。

研究でわかったこと

チームで

☞大学生は、「自分が誰にどう影響しているか」を考えている

☞大学生は、プレッシャーを成長や変化のチャンスと考えている

人と関わるとき、誰かににとっての価値になりたい

自分が変わりたい、人として変わるためにやっているんだと思い出す

相手のことを考え、想像することで相手にとってよりよい可能性を見出したい



CMSPが終わったときに、やり遂げた自分の姿を想像してプレッシャーに立ち向かう

考察

CMSPの「本気で取り組む」という文化が深く内面化されているため、他者への貢献と自分の挑戦のどちらも気合を入れて取り組む姿勢が生まれるのだと考えられます。

活動地域で

☞大学生は、フィールドワークで地域の一員として受け入れられたことが印象に残る

☞大学生は、地域を訪れるたびに地域の方々と打ち解け、信頼を醸成していく



- よく会う地域の方から「あなたたちがいるのが日常になってきたね」と言われたことが印象深い
- 元気がなかった大学生がフィールドワークで地域の方とお話したら元気になったのが記憶に残っている
- 何度も訪問すると信頼関係が明確に醸成されてくる。訪問するときの反応が「おかえり」みたいに感じる

考察

「人と人としての関わり」が深くなったこと、そしてその中で自分の感情が揺れ動いた瞬間を非常に印象的なものとして捉えています。単なる「体験」ではなく、自分自身の変化・相手との関係の変化・活動の意味づけを通じて、フィールドワークが人生的な学びや成長の場となっていることが分かりました。

※大学生の現地入り後に実施したアンケート調査の結果(計4回)をもとに作成しております

SETを支えてくださる寄付者様の声



荷川取 佑太さま
鎌倉グリーンテニスス
クール
役員

SETがくれた、 挑戦と幸せを両立する勇氣

大学時代、SETを通して広田町に出会いました。暮らしと家族を大切に
する町の生き方に心を打たれ、大学生活の多くを広田町とともに
過ごし、人として成長させてもらいました。今でも、町の方々と
家族のような関係を築くことができ、「人生を共に歩む仲間」もた
くさんできました。

社会人になってからも、SETの行動指針にある「やりたいをできた
に変わる。」という言葉のもと、「コミュニティ活性化」や「広報
FR」の仕事に挑戦しました。限られた時間の中でも、自分の想い
を形にできる環境はとてめありがたかったです。そんな挑戦を支
えてくれた仲間がいたからこそ、自信を持って人生を歩めていま
す。現在、私は家業の経営に携わり、家族と過ごす日々を大切に
しています。SETで出会った人々が、「挑戦と幸せを両立させる勇
氣」をくれました。

マンスリーサポーターは、私にとって“つながりの証”です。いつだ
って力になれるし、応援もできる。自分にとってのちょうどいい距
離感で関わり続けることができている。私のように“人生が変わ
る出会い”がこれからも誰かのもとに届くように。そんな力になれ
たらなと思っています。これからもずっと。



山本 弥和さま
非営利型株式会社Polaris
共同代表

SETは生き方を共に探求する仲間

SETとの出会いは、理事長の三井さんと、とある研究会で一緒し
たことがきっかけです。私たちの会社は「心地よく暮らし働くこと
を選択できる社会の実現」をミッションに掲げ、多様で柔軟な働き
方の仕組みづくりを事業としています。物を売るのではない事業だ
からこそ、「私たちはどう暮らし、働き、生きていくのか」という
点を、事業を通して深く探求しています。

そんな中、研究会で「幸福」や「ウェルビーイング」について共に
考えるうちに、SETの事業のあり方に強く共感し、共に切磋琢磨で
きる仲間だと感じたことが、SETにより深く関心を持つきっかけと
なりました。三井さんだけでなく、悩みながらも、多くの他者と関
わりながら成長していくSETの皆さんも、とても魅力的な方たちば
かりです。

直接関わりたい気持ちはありますが、なかなか広田町に足を運べ
ず、すぐに直接的な接点を見つけれられない。それでも応援したい、
という私にとって、このマンスリーサポーター制度はまさに最適で
した。毎月のSETからのレターを楽しみに、これからも少し離れた
ところから活動を応援し続けたいと思っています。

ご支援いただいた 企業・個人の皆さま

ご寄付いただいた皆さま



メディア掲載歴

- ・ForbesJAPAN12月号「いま注目のNPO50 日本を動かし社会を変える、新たな主役」(2024年10月24日)
 - ・LIFULL HOME'S PRESS「『仕事が決まっていなくても移住したい』陸前高田市のNPO法人SETが取り組む関係人口定着の秘訣とは」(2024年12月14日)
 - ・NHK Eテレ「岩手限定!アッキーがゆく復興の地2024」(総合24/3/15)
 - ・NHK岩手「大船渡に親子の「遊び場」設置 リラックスできる時間を提供」(2025年3月)
 - ・岩手グラフ「県内の4つの広域振興局から地域の魅力を伝えます!今回はいわてユースセンターミライト!」(2025年3月)
 - ・NHKラジオ「ふんわり」(2025年3月)
 - ・鎌倉FM「【第4週】防災をもっと身近に!もしも ACTION!」(2025年4月)
 - ・東北観光推進機構「フェニックスアワード 2024」受賞団体の決定について(2025年4月)
- その他地元紙である岩手日報、東海新報では合計20回以上掲載いただきました。また活動させていただいている自治体広報様でも多数掲載いただき
ました。

受賞歴

フェニックスアワード 2024 (2024年3月)

大船渡市の山林火災について

2025年2月26日に発生した大船渡林野火災に際し、
SETは認定NPO法人カタリバと連携し、被災地での緊急支援を実施しました。

避難所での子どもの居場所を3月3日~11日まで毎日開設し、避難所以外の家庭
向けには「おおふなポート」で7回開催しました。また、お弁当支援や炊き出し
支援も行いました。子どもの心身のケアを最優先に、他NPOとも協働して迅速な
支援を展開。今回の連携で得た知見を今後の災害対応に活かし、いち早く必要な
支援を届けられる体制づくりを進めていきます。本緊急支援活動に対して、ご寄
付をいただいた皆様、改めてありがとうございます。



毎月私たちの活動を共に支えてくださる
「仲間＝マンスリーサポーター」を募集しています！

わたしたちの仲間になりませんか？
マンスリーサポーター募集中！
月々**500**円～

85名

明日が、笑顔になる空間を。

Space



ご支援いただいております。

決済方法は2種類あります

①クレジットカード

下記QRを読み取り、
「寄付をする」ボタン
よりお進みください。



② SET寄付専用口座にお振込

金融機関：GMOあおぞらネット銀行
(金融機関コード：0310)
支店：法人第二営業部
(支店コード：102)
口座種類：普通
口座番号：1098266
口座名義：特定非営利活動法人SET
(トクビ) セット

寄付はどんな風に使われるの？

●安心のための資金

SETを持続可能な組織体へと
変化させるための資金とな
ります。バックオフィス機
能の充実や、自然災害や感
染症などの万が一のリスク
に備えるための資金となり
ます。

●挑戦のための基金

新規事業や活動を強化する
ための資金になります。岩
手県への移住者が新たに取
り組む新規事業や、交流を
創り出す学生の岩手県の交
通費補填などに使われる予
定です。

マンスリーサポーターにはどんな特典があるの？

①交流会へのご招待

SETを応援してくださ
る皆様との交流会を
開催します。



②年間報告書をお届け

SETの1年間がぎゅぎ
ゅっと詰まった年間
報告書をお送りしま
す！



③限定メールマガジンの配信

イベントのお知らせや各事
業の活動報告など、SETの
「今」を知れる内容を限定
配信！



その他の寄付方法

●Yahoo!ネット募金

Vポイントで1ポイント
＝1円分として寄付が
できます。



●ふるさと納税

陸前高田市ふるさと
納税でSETを応援で
きます。



●ハチドリ電力

電気代の1%がSETに
寄付されます。



SET概要

正式名称	特定非営利活動法人SET
所在地	岩手県陸前高田市広田町山田52 番地6
常勤職員	10 人
非常勤職員	11人
理事長	三井 俊介
副理事長	石渡 博之
理事	呉 哲煥 加藤 遼 大橋 衛 岡田 勝太
監事	江田 一品

SET沿革

※活動実績などはNPO法人SET HPを参照

2011年	東日本大震災発生 被災地支援のため任意団体「SET」設立
2013年	任意団体から「特定非営利活動法人SET」へ 広田町でChange Maker Study Program（通称CMSP）事業を開始
2015年	広田町で高田と僕らの未来開拓プロジェクト事業を開始
2016年	広田町で民泊事業を開始
2017年	広田町でChange Makers' College（通称CMC）事業を開始
2020年	新型コロナウイルス発生によりサポーター制度を開始 岩手町で中高生向けキャリア教育事業を開始 研究部の立ち上げ コミュニティビジネスチームの立ち上げ
2021年	葛巻町でChange Maker Study Program（通称CMSP）事業を開始
2023年	岩手町でユースセンターをグランドオープン 一戸町で中高生向けキャリア教育事業を開始
～現在	広田町、陸前高田市全域、岩手県各地で活動



Note



Facebook



X



Instagram



公式HP